

食味良好な早生のビワ新品種候補「ビワ長崎7号」

[要約] ビワ新品種候補「ビワ長崎7号」は、「森尾早生」に「広東」を交雑して育成した早生系統である。果形が円形、果皮色及び果肉色が黄白色で、果肉が緻密で軟らかく、甘味が多く食味良好な、がんしゅ病(A,B 系統) 抵抗性系統であり、施設栽培に適する。

長崎県果樹試験場・育種科	専門	育種	対象	果樹類	分野	普及
--------------	----	----	----	-----	----	----

[背景・ねらい]

ビワ栽培においては、収穫・出荷調整に労力が集中する。ビワ産地の品種構成は依然として1産地1品種の形態を呈し経営規模の拡大が困難となっている。このため、既存の品種とは熟期が異なり良質で耐病性等の形質を備えた品種の育成を目指した。本品種は早生で、果実品質が優れた品種を育成するために行った交雑により得た実生から選抜したものである。

[成果の内容・特徴]

1. 1976年に早生品種である「森尾早生」に良食味である「広東」の花粉を交配して育成した。
2. 1980年に圃場に定植し、1988年に1次選抜した。1996年より「ビワ長崎7号」としビワ第2回系統適応性検定試験に供試した。その結果、平成13年度系統適応性検定試験成績検討会において新品種候補にふさわしいと合意が得られた。
3. 樹姿は直立性で、樹勢は中～強であり、がんしゅ病(A,B 系統) 抵抗性である。枝の発生密度は粗で「茂木」よりやや少ないが、花房の着花性は、「長崎早生」よりやや落ちるが実用上は問題ない。開花期は「長崎早生」と同時期である。施設栽培した場合、収穫期は「長崎早生」より3～4日程度遅く、「茂木」及び「房光」より10～11日程度早い早生種である(表1、表2)。
4. 果実の大きさは、平均で52g、「長崎早生」、「茂木」より約10g大きい。果形は円～扁円、果皮色は黄白色～やや赤みを帯びた黄白色で、果肉色は黄白色の白ビワである。施設で栽培した場合は、裂果やそばかす症の発生がかなり抑さえられ外観は良好である。酸含量はやや高いが糖度は安定して高く、果肉が緻密で軟らかいため、食味は良好である(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 露地で栽培した場合は、寒害を受けやすく、果皮障害が発生しやすいため、施設栽培が望ましい

[具体的データ]

表1 施設栽培における長崎7号の特性概要 (2001,長崎果試)

系統名	樹勢	熟期 月日	収量 kg/樹	果実重 g	果肉 硬度	糖度 %	酸含量 g/100ml	食味	そばかす	裂果
長崎7号	強	4/14	11.0	52.4	軟	14.0	0.32	竹良	軽	無
長崎早生	強	4/11	5.9	43.8	中	13.9	0.26	竹良	軽	無
茂木	強	4/25	6.5	43.0	竹硬	12.2	0.27	竹不良	無	無

表2 系適試験地(施設)におけるビワ長崎7号の特性概要 (2001)

場所名 系統名	樹勢	熟期 月日	収量 kg/樹	果実 重g	果肉 硬度	糖度 %	酸含量 g/100ml	食味	そばかす	裂果
千葉 ^z										
長崎7号	強	5/9	8.57	51	軟	14.4	0.14	良	微	無
房光	中	5/19	44.14	62	竹軟	12.5	0.30	竹良	微	無
熊本 ^y										
長崎7号	強	4/25	8.50	53	軟	16.7	0.35	良	無	無
長崎早生	竹強	4/21	14.10	51	竹軟	13.9	0.36	良	無	無



図1 ビワ長崎7号

- z) 千葉県農業総合研究センター
暖地園芸研究所
y) 熊本県農業研究センター
天草農業研究所

[その他]

研究課題名：ビワの育種試験、ビワ第2回系統適応性検定試験

予算区分： 指定試験

研究期間：1973～2001年度

研究担当者：一瀬至、橋本基之、森田昭、寺井理治、浅田謙介、中尾敬、吉田俊雄、
富永由紀子、長門潤、稗園直史、佐藤義彦、福田伸二、

発表論文：なし